補助金活用事例

神鋼鋼板加工（千葉県市川市）

「超短工期特別対応ＰＪ」に新戦力

ファイバーレーザ切断機を初導入

建材系厚板溶断業大手の神鋼鋼板加工（千葉県市川市、水上孝一社長）は顧客満足度向上と営業・受注力の強化を目的に、建築鉄骨や橋梁用の小物切板を対象とした「超短工期特別対応プロジェクト」を2024年4月に発足、全社横断的な取り組みとして3ヵ年計画で推進している。2年目にあたる昨年度、「省エネルギー投資促進支援事業費補助金」を利用し、同プロジェクトにおけるハード面の柱となる最新鋭ファイバーレーザ切断機を新たに導入した。3月から本格稼働を始め、超短工期対応力の強化に効果を発揮している。続く今年度は、主要テーマである受注情報収集や工程管理のための社内システム構築を進めるのと併せて、新設のファイバーレーザ切断機についても超短工期対応の重要戦力との位置付けから活用の幅を一層拡げていく方針だ。

初導入のファイバーレーザ切断機

■小物切板の超短工期化に取り組む

神鋼鋼板加工は、「超短工期特別対応プロジェクト」と銘打った全社横断的な取り組みを進める。営業・CAD・製造の各部門が一丸となり切断・二次加工にとどまらない全体工期の「超短縮化」を図るもので、それまでの「小回りが利かない」ことがネックだった切板生産のあり方を見直す。とくに短納期が求められる建築鉄骨・橋梁向け小物切板の加工についてフレキシブルに対応できる体制を整えることで、製品納期に対する顧客満足度を向上させ、受注増や収益力強化につなげることを狙いとする。

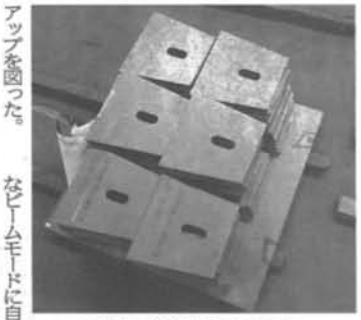
同プロジェクトの対象である建築鉄骨・橋梁向けの小物切板は、手で持てるサイズのスプライスプレートやガセットプレートなどの接続用部材、吊りピースやエレクションピースなどの架設用金具を指し、開先・穴あけ・ショットブラスト

といった二次加工を伴うことが多い。このため、小物切板の切断工程の工期を短縮すれば、二次加工の横持ちや作業時間のロスを減らすことも当然重要となる。

さらには加工済み切板製品の出荷・配送や、現場仕事の前段階である受注処理、CAD作図に至るまで効率化を追求する必要があり、24―26年度の3年間をかけて生産体制を抜本的に改革する計画だ。3年目の26年度末までに製品納期を現状の5・4日から4日に短縮するとともに、1月当たりの超短工期対応枠を同110㌧から400㌧に拡大することを目標に定め、現在はハード面からソフト面の整備へと比重が移りつつある。

■超短工期特別対応ＰＪの主戦力に、ファイバーレーザ切断機を初導入

3ヵ年計画の中間年度となる昨年度、ハード面での主要な設備投資がほぼ完了した。計画初年度ではNCガス溶断機1台を導入し、超短工期専用機に定めたほか、全4台のNCガス溶断機間のデータ共有化を実施。切断指図書のカラー化、自動採番システム構築、品質異常処置の迅速化、GPS活用による配送車両運行状況の見える化にも取り組み、超短工期対応枠として月間65㌧まで対応可能な生産体制を構築。2年目にはこれを110㌧まで引き上げるため、CO2レーザ切断機3台のうち1台を初導入となるファイバーレーザ切断機と入れ替え、小物切板の切断加工能力アップを図った。



小物切板の例（橋梁用部材）

新たに導入したのは、小池酸素工業の12月当たり超短工期対応枠を同110㌧から400㌧に拡大することを目標に定め、現在はハード面からソフト面の整備へと比重が移りつつある。

■超短工期特別対応ＰＪの主戦力に、ファイバーレーザ切断機を初導入

3ヵ年計画の中間年度となる昨年度、ハード面での主要な設備投資がほぼ完了した。計画初年度ではNCガス溶断機1台を導入し、超短工期専用機に定めたほか、全4台のNCガス溶断機間のデータ共有化を実施。切断指図書のカラー化、自動採番システム構築、品質異常処置の迅速化、GPS活用による配送車両運行状況の見える化にも取り組み、超短工期対応枠として月間65㌧まで対応可能な生産体制を構築。2年目にはこれを110㌧まで引き上げるため、CO2レーザ切断機3台のうち1台を初導入となるファイバーレーザ切断機と入れ替え、小物切板の切断加工能力アップを図った。